

G の政治考



G の政治考は
公式サイトで更新中です。
<http://gaun-yoshinao.com/>



2017.12.19

2050年の市役所と松本城

老朽化した松本市役所の新庁舎建設計画が、行政主導で進められています。市当局は、松本城の旧三の丸、天守閣の東側に位置する一等地に、現在より延床面積を広げて建て替える方針を、ほかの選択肢を丹念に検討することなく決めた上で、公募した市民からの意見聴取を事後的に行うなどして、2025年の供用開始を目指したプロセスを加速させようとしています。



ことし2月の議会で菅谷市長から現地建て替えの方針が事実上示されて以降、一連のプロセスと決定に、違和感を拭えません。最も強く感じるのは、「未来志向」という言葉を使いながら、現状に囚われすぎて未来の社会情勢や技術革新を先取りしようという意欲に乏しいことです。

その1つが、人口減少に対する視点です。国立社会保障・人口問題研究所の推計によりますと、現在およそ24万の松本市の人口が、2050年には19万2008人、いまの5分の4に減るとされています。行政の業務量が人口の減少幅に自動的に比例するわけではありま

せんが、全体として縮小の方向で考えていくことは必然でしょう。加えて、2050年には高齢化率が36%を超え、多くの市民は住居に近いところで行政の手続きが済むことを望むようになると考えられます。つまり、本庁に置かねばならない部署や本庁で行うべき業務をできるだけ絞り込み、6つの支所や14の出張所、各地区の地域づくりセンターに職員と業務を分散し、市役所の分権化とネットワーク化を進めることが求められます。こうした分権化とネットワーク化は、ICTの技術革新で十分実現できると想定されます。そうであれば、本庁舎の規模や機能も現状を根本から見直すことになるはずです。

もう1つは、松本城の価値を最大限に高める視点です。「商都松本は城で持つ」の言葉通り、2000年以降、上高地や美ヶ原を訪れる観光客が減り続ける中で、松本城の観光客数は一貫して増加傾向にあり、去年は100万人に迫りました。松本市内に宿泊する外国人観光客も、ここ数年急増しています。松本市が、世界基準の観光都市を目指し、天守閣を中心に旧三の丸までを取り囲むエリアを歴史に鑑みて整備することは、市民にとっても松本城をより魅力あるものとし、近隣の街をはじめ市全体が潤うことになるはずです。実際、いま松本城の南西方面の外堀を復元する事業が多額の予算を使って進められています。そうであれば、市役所が建つ旧三の丸の一等地も、松本城の価値

を最大限高める活用の仕方を優先して考えるべきではないでしょうか。たとえ現在地に市役所の新庁舎を建設するにしても、市役所の分権化とネットワーク化を前提に規模や機能を絞り込むことができれば、活用の可能性と選択肢が広がります。さらに、新庁舎と切り離して建設計画が進められている博物館も合わせ、旧三の丸エリア全体を俯瞰した構想を練り直すべきだと考えます。



今週日曜日に開かれた新庁舎建設に関する市民懇話会でも、これら2つの視点を踏まえた意見が複数の委員から出されました。しかし、これまでの進め方を見る限り、市当局は、現在地に延床面積を広げて建て替えるという既定方針を見直す考えはないと思われます。計画では、2020年末までに事業者を選定し、2021年から設計・建設工事に入る予定です。

人口減少を見据えた市役所の分権化とネットワーク化。世界基準の観光都市にふさわしい松本城の総合的整備。双方の視点を織り込んで2050年の都市構想の作成を進めたいと思います。

臥雲の会 事務局
〒390-0811
長野県松本市中央1丁目2-24
電話 0263-36-7343
Fax 0263-50-6727
E-mail info@gaun-y.com

編集後記

大晦日の深夜0時、除夜の鐘を聞きながら1年を振り返ります。最も世の中が静まり帰るこの時間が大好きです。故郷にいつまでも残ってほしい「音の風景」です。梵鐘の音とともに、去りゆく年のあれこれが、静かに静寂の中に消えゆくように感じます。旧年中は、大変お世話になり感謝申し上げます。来る年も、皆様方にとりまして、佳い年であるよう、お祈りいたします。(くり)

謹賀新年

2018
1
vol.6

Lの視点で、Gの時代を穿つ

G 通信

臥雲義尚 × リポート

臥雲は日々何を考え、活動しているのか。
その横顔と頭の中を覗けるニュースレターです。

楢円の政治で、未来を切り拓く

記者となって初めての年末年始に新潟から皇居周辺の張り番の応援に駆り出され、昭和の終焉を見届けてから、30年目を迎えました。平成という時代は、私にとって、報道の仕事を通じて日本の曲がり角と向き合い、上り坂から下り坂への変化に苦慮する政治家や官僚を間近で見つめてきた時代でした。

「冷戦終結」「バブル崩壊」という2つの大変動に遭遇した日本人は、いま振り返ると、「改革」の強迫観念に駆られてきたように思われます。細川政権の政治改革、橋本政権の行政改革、小泉政権の郵政改革、民主党政権の政治主導、安倍政権の憲法改正。平成の政治は、常に「改革」を競い合い続けてきました。しかし、どこを目指す改革なのか、何を克服するための改革なのか次第に曖昧となり、日本の人口が50年後に3分の2に縮小するという最も根本的で深刻な問題から目を背けてきたように思います。

松本に戻って2年、縮小の時代にいち早く直面している地方都市を日々回りながら、都心と郊外、経済と環境、仕事と家庭、若者と高齢者、

相反する立場のどちらを取るか問われるような場面が増えていると感じます。そうしたときに思い出すのは、かつて鈍牛と呼ばれた大平正芳元首相が常に持ち続けていた「楢円の哲学」です。物事を考える際に、相反する2つの中心を対峙させ、両者が適度の緊張を孕んで均衡を保つ状況から答えを見出すよう心がけていたと言われています。行政と市民、社会と個人、中央と地方、都市と田園。それらを対立するものと捉えるのではなく、調和と統合をどう図るかに知恵を絞る姿勢は、今こそ学び取る価値があると考えます。

ダウンサイジングの時代にあっても、子どもたちが親の世代より僅かでも豊かになっていくことを実感できる社会を創る。松本市は、大手シンクタンクの分析で高い評価を受けたようにそのポテンシャルを備えています。「楢円の政治」を信条として、子育て環境の向上、交通インフラの整備、市役所新庁舎の建設といった課題に向き合い、松本の未来を切り拓いていくつもりです。

臥雲義尚

“子育てに関する家族の負担が重いと、結局、家族がなくなってしまうことになる”
「仏人口学者 エマニュエル・ドット」

日々更新中 /

臥雲の日常と横顔



Facebook



10月~12月 主な投稿記事

- 10/ 1 松本マラソンで舞台曳き出し
- 10/ 3 JC勉強会で交通問題を講演
- 10/11 長野県もマスターズ甲子園
- 10/23 衆議院選で自民284の民意
- 10/24 35年ぶりに早稲田の杜へ
- 11/10 AACRフォーラムに参加
- 11/11 後輩監督映画初日舞台挨拶 a
- 11/11 地元小池町の地区文化祭 b
- 11/17 深志21世紀枠の県推薦校に
- 11/18 中山新そば祭りの前日準備
- 11/19 浅間温泉若手が枕投げ大会 c
- 11/21 シオジリミライカイギに参加
- 12/ 6 ジセダイ忘年会で多事争論
- 12/ 8 極寒の駅前広場でコンサート d
- 12/11 中核市制度は具体性不透明
- 12/17 新庁舎建設市民懇話会傍聴
- 12/20 子ども食堂「なみカフェ」参加 e



a



b



c



d



e

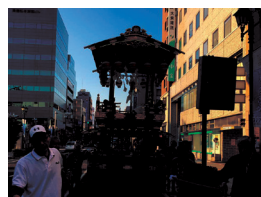
きょうからアイシティシネマで公開された、映画「レフトフライ」の初回上映で、秋原北胤監督と野球の魅力と未来を語ってきました。秋原監督は、東大野球部時代の1年後輩で、30年ぶりの再会でした。彼が目指しているのが、映画制作そのものというよりも、映画を通じた地域活性であることを知りました。近い将来に松本を舞台とした映画づくりに協力して取り組むことができればと思います。

松本・浅間温泉の老舗ホテル跡地で「枕投げ大会」が開催されました。年々旅館が減少している浅間温泉に賑わいを取り戻すきっかけにしようと、地元の若手グループが企画。近所の家族連れや子どもたちの笑い声が、日曜の静かな温泉街に響いていました。ジセダイの前向きな変化の兆しが出ています。一歩ずつ前に進んでほしいと思います。

県営並柳団地集会所で週1回開かれている「なみカフェ」は、子どもたちに地域の人たちが無料で食事を提供する「子ども食堂」の1つです。一足早く催されたクリスマスパーティーには、団地に住む子どもたち15人程が集まり、元気よく大騒ぎしながら、ボランティアの人たちと生クリームたっぷりのケーキ作りを楽しんでいました。子どもたちに寄り添い、子どもたちの気持ちをにこやかに受け止める、ボランティアスタッフの物腰の柔らかさが印象的でした。

地域を支える「町会」の課題

松本市には、491の町会と、それを地域ごとに束ねる35の町会連合会があります。一部の地区を除いて、役員の高齢化と現役世代の不在、少子化による子どもの減少は、町会に共通する重い課題です。私が住む小池町は、マンションが3棟あるため、中心市街地では例外的に子どもが多い地域ですが、年配の方々の経験と若い世代の感性が調和する、町会のあり方や公民館の活用方法を、皆さんと共に考えていきたいと思っています。(臥雲)



次代を
にう 若者×臥雲

ジセダイと語る 松本のプライド

ジセダイトーク

臥雲のFacebookコメントより

政治とは？右左とは？保守とは？リベラルとは？それぞれ言葉の起源や意味の変遷を愚直に掘り下げてみることで、捻れた政治の状況を少しでも解きほぐすことができるのではないかな。そんな思いから企画しました。30人余りの人たちが、ともすれば浮世離れた観念論と一蹴されかねない話を真剣に聴き入ってくださいました。

《番外編》

政治の来し方行く末を語ろう



予想外の展開となった衆議院選挙の直後、いつもと趣向を変え、臥雲義尚が、政治記者として深掘りしてきた経験を基に、これからの日本の政治を解説・展望しました。ナビゲーター役に、NHK時代の後輩で山梨県立大学兼清慎一准教授を迎えて、参加者の皆さんとざっくばらんに政治について多事争論しました。政治が少し身近に感じられた夜でした。

11/27

保育の量と質は足りていますか

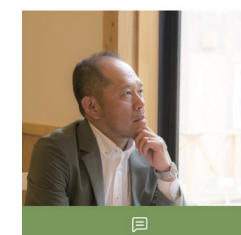
第14回は、認定こども園深志の海野暁光園長と、これからの保育と子育て支援について考えました。海野さんは、「保育士が楽しいと園児も楽しい。そしてお母さんもニコニコ、この循環を大事に」とさすがご住職。子育て環境の変革は始まったばかり…社会全体の意識改革が必要です。まずは、参加者の8割が女性という、この状況を変えることからかもしれません。



量から質へ、画一化から多様化へ、保育のニーズが変わっていることに、公立重視の体制が十分に対応できていないのではないかな。超少子化時代だからこそ、より早期により高い水準の幼児教育を行う環境を整えることが、家族はもちろん社会全体に大きなプラスをもたらす。保育士の待遇向上、保育情報のICT化、無償化の前に全国に先駆けてやるべきことがある。

LINE@をはじめました。

臥雲義尚オフィシャル
LINE@



LINE@（ラインアット）は、臥雲義尚から会員の皆様に直接、いま、伝えたいことをリアルタイムでお知らせします。LINEのアカウント開設をしていただくだけで、無料で使用できるサービスです。左ページFacebookは「日記」として、LINE@は「手紙」として活用したいと考えています。会員登録の手間もなく、スマホで右のQRコードを読み取るだけで、臥雲義尚から情報を受け取っていただけます。

